

つるぎたち
劍太刀（大伴家持）

解説 平安時代において劍や太刀は、武器であるとともに、
邪悪・穢れを祓い、清明さを回復させる神具でもありました。
大伴家持はこの和歌において、「武人の名門の名を曇らせるこ
とがないようにしなさい」と子孫への教訓を詠んだ。

つるぎ
劍 太刀 いよよ 研ぐべし 古ゆ
たち
いと
いよよ
いと
いにしえ

語釈 ※研ぐ＝劍太刀を研ぐこと、と家名を磨くこと、を掛け
ている。※古＝神の御代から。※清けく＝清く明かにの意。

さや
清けく 負ひて 来にし その 名ぞ
お
お
き
な

通釈 劍太刀を磨ぐというではないが、心をいよいよ磨ぎ澄ま
して緊張感をもつべし。わが大伴は遠く遙かなる御代から背負
い持ってきた由緒ある名であるぞ。決して絶やしてはならぬ。